

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中津商業高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月17日(木) 13:30~15:30
- 3 開催場所 中津商業高等学校会議室
- 4 参加者
- | | | | |
|---------------|----------|-----------------------|------|
| 会長 | 粥川 茂和 | (同窓会会長、市議会議員) | |
| 副会長 | 成瀬 博明 | (同窓会副会長、中津川商工会議所専務理事) | |
| 委員 | 児玉 光弘 | (地域住民代表 学識経験者) | |
| | 李 瑾 | (中京学院大学 准教授) | |
| オブザーバー
学校側 | 大瀧 國嘉 | (中津川市立第一中学校長) | (欠席) |
| | 市川 順子 | (中津川市定住推進部市民協働課主査) | |
| | 石黒かおり | (中津川市幼児教育課主査) | |
| | 久木 利道 | (トーキン工業株式会社 代表取締役) | |
| | 加藤 孝盛 | (PTA会長) | (欠席) |
| | 石黒 梨香 | (PTA役員) | |
| | 原 祐一 | (前校長) | |
| | 森 益基 | (岐阜県議会議員) | |
| | 森岡 孝文 | (校長) | |
| | 丸山 裕 | (教頭) | |
| | 松村 勇一 | (事務長) | |
| | 兼松 美穂 | (教務主任) | |
| | 伊藤 則生 | (生徒指導部長) | |
| | 坂本 美和 | (進路指導部長) | |
| | 新井 秀行 | (保健安全部長) | |
| 丹羽 浩徳 | (渉外部長) | | |
| 若尾 昌彦 | (商業教育部長) | | |
| 勝野日菜子 | (記録) | | |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和4年度 中津商業「ふるさと教育」関連事業について・・・生徒発表

①ビジネス情報科

「住みたくなるまち中津川」の中間発表

- ・「インスタグラム」による情報発信
 - (ア) 中津川市の魅力を知ってもらうための活動
 - (イ) 創立100周年記念の情報発信
- ・ソフトバンクの「AIチャレンジ」
 - (ア) 現在AIの基礎を学び、企画を発表
- ・その他の地域での活動
 - (ア) 六歳市でのボランティア
 - (イ) 小学校での「プログラミング教室」

② ビジネス科会計コース

- ・「地域活性化を目指して」
 - (ア) 東濃デリカとのふるさと納税返礼品の開発
 - (イ) 商品開発・・・山岡寒天館との腸活ジュレの開発
 - (ウ) 中学生へ向けての「出前授業」

(2) 本校をめぐる現況について・・・学校長より

本校における探究学習の活性化～課題解決力と情報活用力の育成～

① 課題意識

- (ア) Society5.0の到来や新型コロナウイルスの蔓延は、世界の社会構造を変える。
- (イ) 魅力のある学校づくり、入学定員の充足

② 岐阜県立中津商業高校 概要

③ 岐阜県教育ビジョン、教育振興計画「ふるさと教育」

- ④ 学校をめぐる環境の変化・・・ICT環境の変化
- ⑤ 生徒の進路希望の変化→進学希望生徒数の増加
- ⑥ 生徒数の減少→地元中学校の生徒数が減少傾向
 - ・スクールポリシーの明確化→本校がどのような学校なのかを地域に理解してもらう
- ⑦ 本校の強み
 - (ア) 創立100周年の伝統・・・地元企業からの支援
 - (イ) 中津川市の支援、市の定住推進施策
 - (ウ) 学科・コースの特性を生かした探究学習(課題研究)
- ⑧ 創立100周年アントレプレナーシップ支援事業
 - ・心に火をつける体験(フロンティアスピリット)、プレゼン能力の開発(課題探求)
 - ・持続可能な地域創生(SDGs)、グローバルな視野(海外研修)
- ⑨ 中津商業の探究学習
 - ・地域を教材として、その魅力を再発見し課題を解決する
 - ・地域から発想し、さらに広い世界へ繋げていく
 - ・商業科の学科・コースの特性を活かした学び
- ⑩ ビジネス科 流通コース・・・地元企業と連携した商品開発
 - (ア) 地域特産品を使ったジェラートを開発
 - (イ) IT人材育成プロジェクト
- ⑪ ビジネス科 経済コース・・・地域経済研究
 - (ア) 中津川市観光PR動画作成
 - (イ) 小学生向けイベント(中津川ひろめ隊)
- ⑫ ビジネス科 会計コース・・・企業経理
 - (ア) ふるさと納税返礼品提案
 - (イ) 中学生企業活動体験講座
 - (ウ) 第六次産業体験的 腸活ジュレ「ENAKTSU」
- ⑬ ビジネス情報科
 - (ア) AIチャレンジ(AIチャットボット)
 - (イ) 地域資源の情報発信
 - (ウ) プログラミング講座・・・地元小学校でプログラミングの楽しさを伝える
- ⑭ 教師の指導
 - (ア) 新しい発想は無知から生まれない(情報収集力、活用力の重要性)
 - (イ) 意見の違いを対話によって解決していく(柔軟な発想力と対話が課題を解決していく)
 - (ウ) 意見の違い、価値観の違いを表面化させる(安易に決めさせない)
 - (エ) 結論がなかなか出ない課題を解決するためには新たな提案が必要
 - (オ) 何かを選ぶことは、何かを捨てなければならないこと(トレードオフ)を実感させる
- ⑮ 商業高校の「探究学習」の特徴
 - (ア) 双方向性と体験的な学び
 - (イ) デザイン、ストーリー性という「新たな付加価値」の探究
 - (ウ) 新たに問い(課題)の発見、そしてその繰り返し=思考力
「課題解決」⇒簡単に「解決」する課題は無い
- ⑯ 探究学習と進路指導
 - スクールポリシー・・・育成する資質・能力の明確化
 - ↓
 - 探究学習・・・各教科・科目の指導の集大成、学科・コースの特性を活かす
 - ↓
 - 進路指導・・・探究学習で身に付けた資質・能力を面接や小論文でアピールをする
⇒身に付けた(必要とする)資質・能力の言語化
学習評価=資質・能力をいかにアピールするか
- ⑰ まとめ
 - 課題解決力と情報活用力 →コロナ後の社会で求められる力
 - 探究学習 →商業高校の学科・コースの特性を活かした学び・・・双方向性、体験的な学び
 - 普通科、総合学科との差異化⇒学校の魅力化
 - 中学校や小学校へのアプローチ

(3) 学校評価アンケート結果について・・・各分掌より

- ① 教務部・・・学習評価について
 - ・3観点による評価は生徒の意識向上に繋がっていると考えられる。
 - ・充実してきたICT機器を利用した学習に繋がっていきたい。

- ② 生徒指導部・・・校則について
- ・心のアンケートやいじめのアンケートは毎月行っているが、いじめに関する情報はほとんど出てこない。こういった点も難しいところではある。
 - ・第1回目でお話した校則については生徒会執行部と話をする機会を設けた。「制服についてどう思うか」「何か改善したいことはあるか」の質問に、本校生徒は非常に肯定的で、何か改善したい点といった意見は出なかった。
 - ・制服のストラックスについては、非常に否定的であった。
- ③ 進路指導部・・・進路現況
- ・コロナ禍で、生徒に対して進路関係の行事は工夫をして行っているが、保護者に対しての情報が少ないと考える。今後は、保護者対象の進路相談を積極的に行いたい。
 - ・進路現況（11月17日現在）
1年生希望調査・・・就職 42%、進学 58% 2年生希望調査・・・就職 37%、進学 63%
3年生進路
就職 42%(公務員1人含む) 中津川市内・恵那市内 60% 岐阜県内 8% 県外 30%
進学 58% ……まだ試験があるため決定はしていないが希望として調査した結果
4年制大学・・・33% 短期大学・・・5% 専門学校・・・62%
現状としてどの学年も、進学が増加している傾向があり、進学対応が急務である。
- ④ 保健安全部
- ・命を守る訓練を1年で3回行っている。
 - ・新型コロナ感染対策については、朝のHRでの健康チェックや、マスク、手指消毒、黙食などの基本的な対策を行っている。
- ⑤ 渉外部
- ・本校創立100周年事業を開催。
 - ・PTA活動など、コロナ禍で行事ができない。学年懇談会もリモートでしか行えないなど、保護者と対面で話す機会が減少している。
 - ・ホームページなどを作成しているが、保護者の方も見る機会が少ないため、今後は、積極的に伝える工夫を検討していきたい。
- ⑥ 商業科
- ・商業活動としては、地域や地元企業、行政に協力を得て年々活発に行っている。
 - ・課題研究においては、3年生が主体で活動をしているため、今後は下級生への情報発信を積極的に行いたい。
 - ・学習指導要領の改訂に伴い検定内容も一部改訂した。今後は、積極的に対応し、より効果的な学習方法を取り入れ成果を上げていけるように進めていきたい。

6 本校への意見

- 意見1：進路について、企業などは現在非常に人手不足。ITなどにも力を入れてはいるが限界がある。就職では、一般に2・3年で退職してしまう率が増加している。そういった点から、就職した生徒の定着率の把握はしているのか。
→学校独自では現在把握していないが、就職した後の定着率も検証していきたい。
- 意見2：生徒のプレゼンや校長からの学校紹介から、「夢があっている」と感じた。また、生徒たちの発表時の表情もよく、内容が非常に楽しそうで、生徒たちは充実した学校生活をおくれていると感じた。地域の魅力をInstagramで伝える活動で、中津川市の良いところを発掘し情報発信していくことは、大変良い事だと感じた。また、今まで気づけなかった地元のことを改めて発掘し、高校生の視点から高校生らしい観点で魅力を見つけ発信して欲しい。
- 意見3：課題研究、ふるさと教育がここ数年になって劇的に変わったと感じた。特にコロナ禍で苦しみながらも、生徒たちと共に頑張っている事がよく伝わった。
コロナ禍で、ICT関係の整備が整い生徒たちの学習環境が劇的に変わったと感じる。保護者や関係者へのアンケートで、「分からない」点が多い。保護者や関係者、地元の方々向けのInstagram等があったらいいと思う。生徒たちは普段学校で何をしているのか。生徒や教員が写真や動画を撮影し投稿すれば、アンケートの「分からない」という意見が減ると思う。
- 意見4：生徒のプレゼンテーションが上達し、喋り慣れているよう見受けられる。
中津川市も発表会が行われている。大学生の発表もあるため勉強と練習の場として、是非、参加してみてもどうか。
- 意見5：最近の生徒に接していて、先生方で何か以前と変わって来たところがあれば、感想で良いので教えて欲しい。
→コロナの影響で、より人との関わりが薄くなってしまい、生徒自身も少し人付き合いが苦手な生徒が増えている感じがする。
また、指導に関しては非常に気を使い、指導はするがその後のフォローは欠かせない。

→生徒指導主事会議にて、今の生徒をどう捉えるかという話題が上がり、データの的には、昔と比べ問題行為は激減しているが、情報モラル違反などのトラブルは年々増加している。

県は心の問題というところに着目し、生徒のカウンセリングなどの心に寄り添う指導に取り組んでいる。

→生徒の個性を見て、コミュニケーションを取りながら対応していかななくてはいけない。

意見6：創立100周年記念事業は非常に良かった。生徒の国歌・校歌の独唱に感動した。生徒が主体で進行を行い、とても居心地の良い記念式典でした。

ふるさと納税について、新しい物を考え作っていくということは、お金にはあまりならないが、技術の継承や向上に良い。制作物等のマッチングを考えて、学校で何か1品でも作ることで、違った意味での商品開発に繋がり、商業の発展になると考える。

意見7：学校評価アンケートについて、保護者の目線から考えてもやはり「分からない」ことが多い。ホームページ等で紹介されているのは知っているが、ホームページを見る機会が少ないが、積極的に情報発信を行って頂ければ保護者の安心にも繋がる。

今の子供達について、心が優しく向上心を表に出さず、受け身になっている人が多いと感じる。決して悪いことでは無いが、社会に出れば許されないことも当然出てくる。

学校は課題研究などを通して、普通科高校では体験できないような、社会に1番近い体験を行っている。

外部との繋がりや、プレゼンテーション発表などで心の強さは鍛えられていると思う。人前で話すことを経験することはとても大切なので、プレゼンテーション発表などは続けてほしい。

進学を選択した生徒の、大学卒業後の進路状況の情報があると保護者としては非常にありがたい。

意見8：本校は発表の仕方が非常に上手いと感じた。

アンケート結果を見て、この結果だったらどこに出しても恥ずかしくは無いと感じた。

就職について、公務員の就職率が少ないように感じる。

7 会議のまとめ

- ・今回の主な議題は、1 「ふるさと教育」関連事業の中間発表 2 本校をめぐる現況について 3 学校評価アンケートの報告と改善点について議論を行った。
- ・ふるさと教育の関連事業の中間報告は、コース別に生徒の発表を聞いていただいた。どの事業についても地元企業や行政機関など、地域の方の協力があって行えていることについて紹介させていただいた。感染防止の制約の中であるが、今後も忌憚のないご提案を頂きたい。
- ・学習評価アンケート結果については、評価と今回の意見を踏まえ、保護者に対しての情報提供を積極的に行いたい。
- ・100周年の歴史を学ぶ機会も作り、生徒が将来を考えるきっかけにしていきたい。